

開催記録

名 称	第1回介護保険事業計画等策定委員会
開催日時	平成29年10月4日(水) 午後1時30分から午後3時15分まで
開催場所	高田庁舎北庁舎 2階 第7、8会議室
出席者	<p>保険医療関係者：佐藤 仁(高田厚生病院事務長)</p> <p>福祉関係者：原 敬義(千桜会在宅総合ケアセンターセンター長)、 馬場幹雄(町社会福祉協議会副会長)、丹藤正明(町民生児童委員協議会副会長) 神村正子(町食生活改善推進員会会長)、穴澤房子(町主任ケアマネジャー会議)</p> <p>被保険者代表(第1号被保険者)：邊見哲朗、根本隆男</p> <p>費用負担者代表(第2号被保険者)：薄 謙一(公募)、阿部明子、栗城加代子</p> <p>行政関係者：弓田秀樹(副町長)</p> <p>事務局：(健康ほけん課) 日吉祥晃課長、渡部 充課長補佐、介護保険係 国分政和係長、長谷川国子、遠藤絵美、高木克哉、(福祉課) 星 寿明課長、高木朋子課長補佐、社会福祉係 鈴木睦子係長、星 通</p> <p>※欠席者：萱場博子(菅家歯科医院院長)、須藤 實(第1号被保険者)、三津谷若子(地域包括支援センター管理者)</p>
議 題	委員長、副委員長の選出、第7期介護保険事業計画、第8期高齢者福祉計画の基本的な考え方等、第6期介護保険事業計画の進捗状況、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査結果、高齢者福祉サービスの実績
資料の名称	第1回介護保険事業計画等策定委員会
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>1 委嘱状交付、開会、町長挨拶、委員及び事務局紹介(省略)</p> <p>2 説明</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局より、介護保険事業計画等策定委員会要綱及び計画策定体制について説明</p>	

3 協議【議長：(1) 町長、(2) 以降 馬場委員長】

(1) 委員長、副委員長の選出について

委員長：馬場幹雄、副委員長：丹藤正明

(2) 第7期介護保険事業計画、第8期高齢者福祉計画の基本的な考え方等について 事務局より説明

(委員) 今回の会議は介護という形で開催されるわけですが、高齢者は勿論であるが、難病を患い自宅で家族の介護を受け生活されている方もいらっしゃいます。このような難病を患っている方や、障がい者の方等の介護は対象とならないのでしょうか。

(事務局) 今回、皆様に策定いただく計画につきましては、介護保険法及び老人福祉法に基づいた計画となりますので、この法律に基づいた対象の方のための計画になります。質問にあった方につきましては、地域福祉計画の中で分けて対応する形になります。

(委員) 配布された資料の中の共生型サービスには障がい者の方についても述べている。ここに入ってくるということは一緒に平行して進めていく考え方ではないのですか。

(事務局) 今回お渡しした資料には、介護保険制度の改正以外にも関連する法律の改正についても記載されていますので、将来的には別な所でテーブルに載せて検討していくこととなります。今回協議を進めていただくのは、高齢者に関する事項や介護保険の認定を受けている方々のサービス等の需給関係を見ながら決めていくこととなりますので、今回の委員会はそのような場であるということをご理解いただきたいと思います。

(委員長) 確認いたしますが、障がい者については別途といいますか、この委員会では対象としないということでもいいですか。

(事務局) 今回の計画は高齢者の老人福祉の中の計画になりますので、障がい者施策の計画につきましては町の別な計画がございますので、そちらの範疇で取り扱わせていただきたいと思います。

(3) 第6期介護保険事業計画の進捗状況について

事務局より説明

(委員) 地域密着型サービスで気になった点があつて、第6期計画策定時にはなかったサービスが実績で出てきている。その時には予測できなかったサービスが生まれてきたからだと思う。今後事業計画を策定していくにあたって、新たなサービスが出てくるかを把握しているかをお聞かせいただきたい。

(事務局) 現在、当町において利用実績のないサービスについても、次期計画では検討していきたいと考えています。

(委員) 介護給付等費用適正化事業について、年2回通知書を送付しているとあるが、年2回の理由を教えてください。

(事務局) 細かく通知できればよいが、町としては年2回として通知しています。

(委員) 家族介護支援事業については参加者の人数が減ってきているが、効果は上がっているのかというか何故減っているのか。

(事務局) 事業登録者は介護をされている在宅の家族の方になりますが、例えば介護度が重くなられて施設に入所された場合等、平成28年については例年より多くなったことが要因と考えられます。

(委員) 増える要因よりも減る要因の方が多かったということか。

(事務局) そうなります。

(委員長) 第6期の計画は実績として満足できるものであったか。

(事務局) 介護保険事業計画とは3年を1期とした計画を、そのサービスとお金のバランスの中で成り立っている仕組みであることをまずご理解いただきたいと思います。たしかに施設入所の待機者もいる事は承知していますが、団塊の世代の方が75歳を迎える時が高齢者のピークであろうと言われていきます。それらを踏まえて、需要と供給、保険料とのバランスを見て考えていかなければならないと思っています。第6期の計画期間では、保険料に対してのサービス量はほぼイコールで、給付費も増えているが被保険者も増えているので、トータル的にはバランスが取れていました。次期計画策定時は、全体でのバランスを考慮しながら先のことも見据えて考えていただきたい。

(委員) ピークはいつ頃になるのか。

(事務局) 国では、団塊の世代の方が75歳を迎える平成37年度が需要のピークといわれています。ただし、町ではそれよりも早く、後数年で高齢者のピークを向える見込です。

(委員) 高齢者も頭打ちということですが、それ以上にすでに若い世代の払っていく世代も減っているはずですが、今後もその傾向は続くはずなので、そういった予測を立てていただくと良いと思います。もう一つは、国の福祉政策の見通しも入れて計画を立てていきたいと思うので、事務局の方でも把握の方よろしくをお願いします。

(4) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査結果について

事務局より説明

(委員) 在宅介護実態調査について、対象者は65歳以上の高齢者が対象なのか。それとも、年齢は関係なく認定申請された全ての方なのか。

(事務局) 調査対象者は全て65歳以上の高齢者です。

(委員長) 調査結果についての事務局の感想は。予想通りであったのか。

(委員) 中々把握できていない部分もあり、調査結果が出て改めて分かった内容もありました。

～10分休憩～

(5) 高齢者福祉サービスの実績について

事務局より説明

(委員) 質疑なし

(6) その他

・次回の委員会開催予定 10月25日(水)午後1時30分から

4 閉会

以上